

新潟ニューフードバレー構想について

1. ニューフードバレー構想とは

「ニューフードバレー構想」は、新潟市都市政策研究所の提言「田園環境都市構想」の中に掲げられている5つの戦略課題の一つで、食品産業の持続成長を確保するための構想である。

2. ニューフードバレー構想の主要課題

主要課題	内容・狙い
食品リサイクル	フードに関係する資源（農業や食品加工業からの排出物など）を、肥料（堆肥）化、飼料化、エネルギー化して活用し、循環をつくる
加工米の地元供給体制確立	農業者、土地改良区、メーカー、大学研究者と新潟市とで推進協議のプラットフォームを形成し、地元原料米を低コストで安定供給できるシステムを確立する
米粉の市場拡大	米粉業者、製品メーカー、小売業などで情報交換ネットワークを形成し、生産・加工・流通の事業連鎖を生み出す
域外ネットワークの構築	大手企業や海外企業との関係を強め、域外ネットワークを構築する
海外展開の助成	欧米市場やアジア市場への進出支援に向けて調査研究を行い、新潟の米関連技術を強みに海外への展開を進める

3. ニューフードバレー構想における食品リサイクルの方向性

堆肥化・飼料化・エネルギー化など複数の手法を視野に、「大きな循環」と「小さな循環」を組み合わせた、「新潟モデル」の食品リサイクルを進める。

「大きな循環」・・・企業や農家の連携による、大規模・集約型の全市的な取組

「小さな循環」・・・地域の特性を活かした、小規模・分散型の域内処理の取組